

# 青森市TDM実証実験調査の概要

(夏期:平成14年6月～平成14年8月、冬期:平成14年11月～平成15年1月)

## 背景

本市は、特別豪雪地帯に指定されており、厳しい自然環境下にある中で、交通需要が増大している都心部及び都心流入部での交通混雑の緩和が課題である。また、公共交通機関の冬季における定時性の確保及び交通弱者である高齢者等の生活の足を確保することなどが課題となっている。

一方、CO<sub>2</sub>排出等による地球環境問題を考慮し、自家用自動車に過度に依存することのない、人と環境にやさしい交通システムの形成が求められている。

## 実験の概要

冬季に特有な通勤時間帯の激しい渋滞を緩和するため、以下の対策を実施

都心部周辺のバス路線空白地域と都心部を結ぶ小型循環バスの運行

(夏期においても運行を行い、積雪期以外の渋滞緩和効果を検証)

循環バス運行主体：青森市交通部

時差出勤の実施

青森県職員(1日当たり約1,500名)、青森市職員(1日当たり約500名)、20の民間事業所従業員(418名)が参加



関係行政機関等によるTDM実験への支援(東北運輸局、東北地方整備局、青森県警察本部)

## 実験の成果

循環バスについては、冬期により多くの利用がみられた。

(夏期:9.7人/便、冬期:15.6人/便)

時差通勤については、参加者アンケートによると、県市職員の52%、民間事業所従業員の45%が、渋滞緩和を実感。

これらの取り組みにより、青森都心部への移動性向上及び渋滞緩和に一定の効果がみられた。

## 実験後の状況

循環バスについては、採算性が厳しく、本格運行に至っていない。

時差出勤については、民間事業所に対してPRの強化を行い、参加の輪を広げていく。